

〔シンポジウム〕

小児歯科における私の工夫点

司会 増田 純一（小児歯科専門・福岡市開業）

かつて大都市を中心にして発展してきた小児歯科医療も、地方の時代を迎えつつある。しかし、国民医療経済の抑制傾向のなかで、われわれが本来目指している小児歯科医療を着実に発展させていくためには、地域性を十分に考慮した上で、あるべき姿を追求してゆく態度が求められている。

そこで、本シンポジウムでは、九州地区において小児歯科を毎日実践している開業医が中心となって、私の工夫点と題してお話してみることになった。

一般歯科と違って、小児歯科医療の場では、診療室の設備、スタッフの協同動作、母子衛生指導、リコール制の確実な実施など、工夫を要する点がいくつもある。各シンポジストから経験談を中心にしてお話し願ひ、さらに追加討論や会員からの質疑を通じて、各会員が自分なりの工夫点にヒントを得ていただければ幸いである。

1. 診療システムについて

品川 光春（小児歯科専門・佐世保市開業）

小児のための歯科診療システムを考える際、一般臨床とは違った多くの工夫点があるが、私は、診療室の設備、治療日および時間帯などの工夫点について、日常臨床に基づいて話を進めてみたい。また、このような診療システムを実施するにあたり、スタッフの占める役割は大きい。そこで、スタッフの役割についても言及してみたい。